



第97期事業報告書

(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)



株主の皆様へ

目 次

株主の皆様へ.....	2 ~ 4
営業の概況.....	5 ~ 8
単体財務諸表.....	9 ~ 10
連結財務諸表.....	11 ~ 12
トピックス.....	13 ~ 16
株式の状況、役員	17
会社概況・株主メモ、 ご優待のご案内.....	18

株主の皆様へ



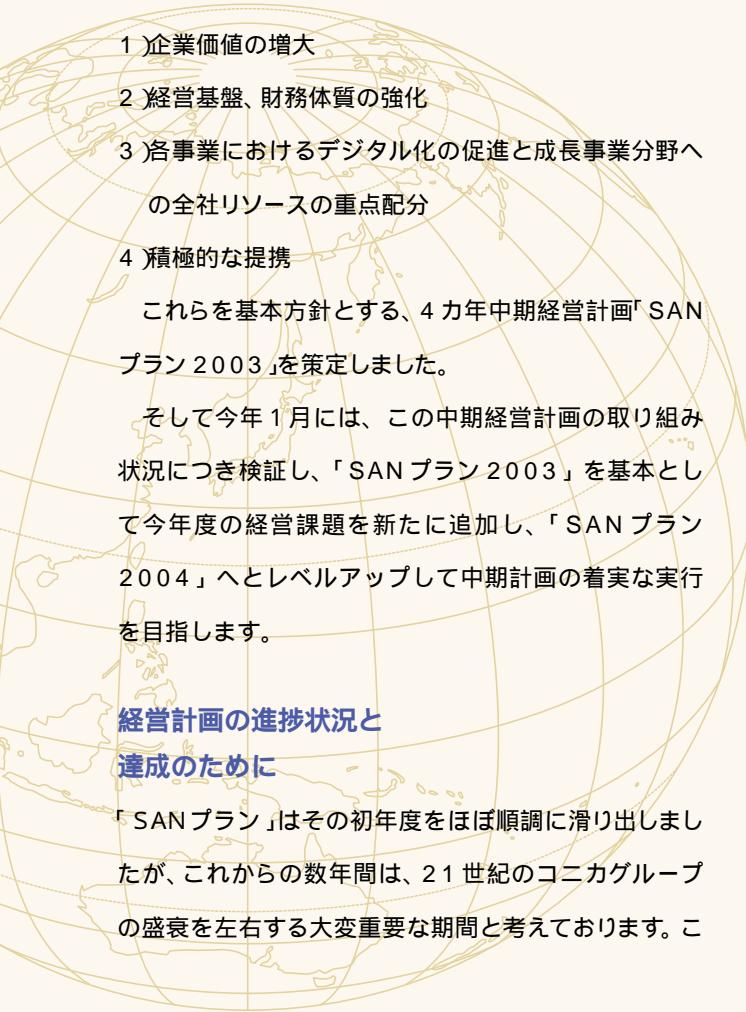
2001年4月よりコニカは新しい経営陣による体制がスタート。加速するデジタル化の中でシンプル、スピード、フレキシビリティーを武器に「見えるコニカ」を目指します。

新社長としての重要課題

歴史的な転換点でもある新世紀の始まりの本年4月から社長として業務執行に携わることとなり、その責任の大きさを感じるとともに、大きなやりがいと希望を抱いております。

現在展開している全社的な方針や経営計画につきましては、前社長が築いてまいりました従来の路線を堅持し、引き続き企業価値の向上のために努力してまいる所存です。

当社では平成11年度は、キャッシュフロー重視の経営、選択と集中という方針のもとに事業を峻別し、営業利益の改善を図り、業績のV字回復を図りました。この成果とともに、21世紀の変革に対応するために平成12年1月には経営計画のキーワードをSPEED、ALLIANCE(提携) NETWORKとして、

- 
- 1) 企業価値の増大
 - 2) 経営基盤、財務体質の強化
 - 3) 各事業におけるデジタル化の促進と成長事業分野への全社リソースの重点配分
 - 4) 積極的な提携
- これらを基本方針とする、「SAN プラン 2003」を策定しました。

そして今年 1月には、この中期経営計画の取り組み状況につき検証し、「SAN プラン 2003」を基本として今年度の経営課題を新たに追加し、「SAN プラン 2004」へとレベルアップして中期計画の着実な実行を目指します。

経営計画の進捗状況と達成のために

「SAN プラン」はその初年度をほぼ順調に滑り出しましたが、これからの数年間は、21世紀のコニカグループの盛衰を左右する大変重要な期間と考えてあります。こ

の中期計画を羅針盤として経営の舵取りをしていくわけですが、私はこの達成のための原動力は人とその意識にあると考えます。

大きな変革のうねりの中にあって、コニカグループをより一層活力のある企業集団にしていこうと考えています。

一人ひとりが、ファイティングスピリットをもち、現状にあまんじることなくナンバーワンになることに強い執念を抱く闘志みなぎる集団を目指します。

そのために必要な意識は「シンプル、スピード、フレキシビリティー」であります。言動、しくみ、組織などすべての基本は「シンプル」がベストと考えます。すさまじい勢いで顧客や市場が変化するなか、競争に勝つための最大の武器は「スピード」です。めまぐるしい変化に対応するために必要なもの、それは自らをも変革する「フレキシビリティー」です。つねにこれらを意識し、戦う姿勢を全面に出していくば必ず大きな展望が開けていくものと確信しています。



「見えるコニカ」

また、前社長が取り組んでまいりました、経営の透明度を高めるという方針をさらに進めます。目指す姿は、「見えるコニカ」です。株主の皆様をはじめ、顧客、地域住民、取引先、従業員など当社に関わるすべての人たちにとって、オープンでフェアな企業、また透明度の高い企業にいきます。

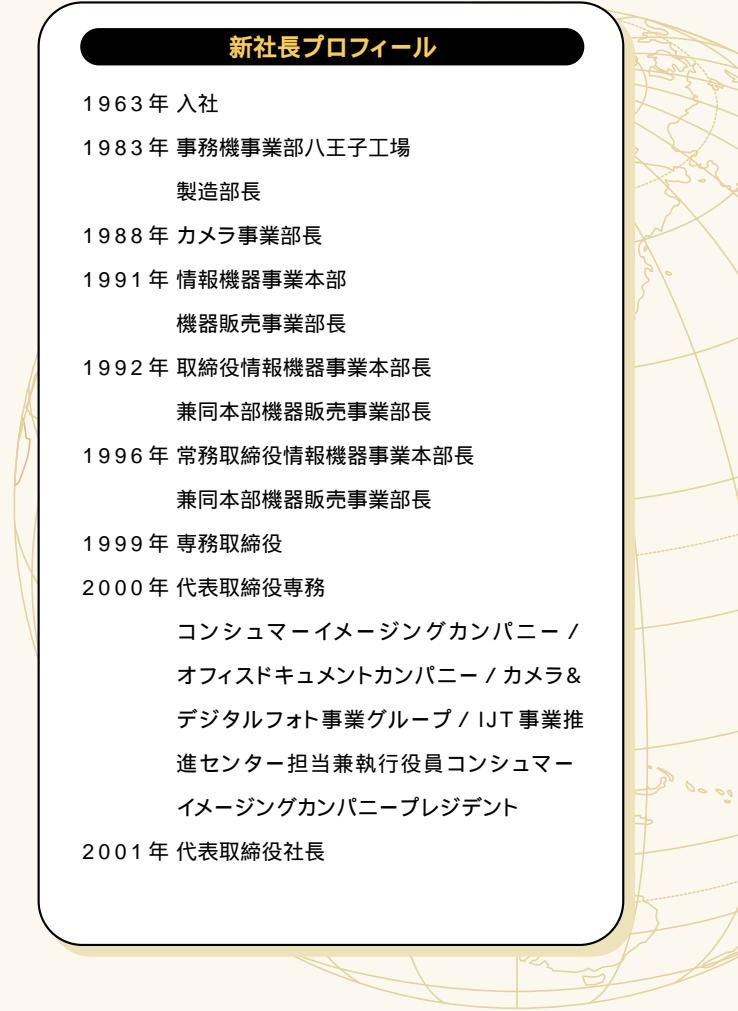
新社長として、数々の目標の達成に全力で邁進し、イメージングソリューションカンパニーとしてのコニカを確立してまいります。株主の皆様におかれましては、尚一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成13年6月

代表取締役社長
岩居文雄

新社長プロフィール

- 1963年 入社
- 1983年 事務機事業部八王子工場
製造部長
- 1988年 カメラ事業部長
- 1991年 情報機器事業本部
機器販売事業部長
- 1992年 取締役情報機器事業本部長
兼同本部機器販売事業部長
- 1996年 常務取締役情報機器事業本部長
兼同本部機器販売事業部長
- 1999年 専務取締役
- 2000年 代表取締役専務
コンシュマーイメージングカンパニー /
オフィスドキュメントカンパニー / カメラ &
デジタルフォト事業グループ / IJT 事業推
進センター担当兼執行役員コンシュマー
イメージングカンパニープレジデント
- 2001年 代表取締役社長



営業の概況

営業の経過と成果

当期における世界の経済は、各地域とも概ね好調に推移しておりましたが、昨秋よりそれまで景気の牽引役であった米国を中心とするIT関連産業が一転して調整局面に入り、先行き非常に厳しい見通しとなりつつあります。

わが国の経済は、民間の設備投資の一部に回復がみられたものの、個人消費の回復が遅れ、後半には株価が低迷するなど、景気回復感の乏しい状況が続きました。

当社では昨年、平成16年3月期までの4カ年中期経営計画「SANプラン2003」を策定しました。当期はその遂行の初年度でしたが、その経営方針に沿って成長分野の事業は着実に拡大し、デジタル化・ネットワーク化に対応した製品の売上比率も大幅に増加して収益力も向上するなど、順調に

その成果が現れました。また6月にはコーポレートガバナンス充実のために、取締役会の改革と同時に執行役員制を導入いたしました。

平成10年よりグループのキャッシュフロー改善を最大のテーマとして取り組んでまいりましたが、当期は連結ベースで428億円のフリーキャッシュフロー^{注1)}を創出し、連結有利子負債^{注2)}は当初目標としておりました2,000億円を大きくクリアし、1,819億円まで削減できました。

当期の米ドル及びユーロの平均レートは、それぞれ109.69円、100.58円と前期に比べ米ドルが2.0%、ユーロは14.2%の円高となり、当社の業績に大きく影響を及ぼしましたが、売上高は3,452億円と前期比48億円(1.4%増)の增收となりました。合理化によるコストダウンの

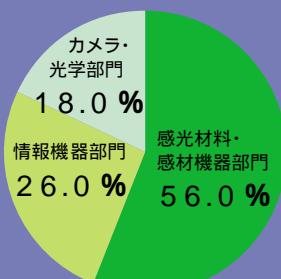
推進や販売費及び一般管理費の削減を推進した結果、営業利益は178億円と前期比32億円の増益(22.3%増)、経常利益は171億円と前期比69億円の増益(67.6%増)となり、当初の目標を達成することができました。

一方で新会計基準への対応として、退職給付会計導入にともなう会計基準変更時差異の一括償却を目的として、当社の保有する株式の一部を抛出して退職給付信託を204億円で設定しました。信託設定に係わる特別利益88億円を計上するとともに会計基準変更時差異204億円を一括して特別損失として計上いたしました。

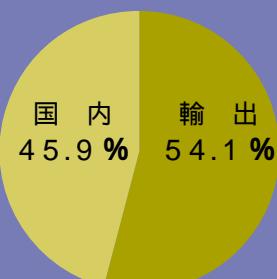
また、金融商品に係わる会計基準に則り、保有している有価証券について新基準による時価評価を全面適用し、投資有価証券評価損23億円を計上しております。併せて子会社株式評価損47億円計上いたしました。さらに、資産効率改善のために賃貸中であった室町センタービル等を売却し、固定資産売却益を85億円計上しております。その結果、当期の特別利益は185億円、特別損失は304億円となりました。

以上により、当期利益は36億円で、

事業構成比



国内外売上高比率



前期比 10 億円の減益(22.4 % 減)となりました。

(注¹) フリー キャッシュフロー：連結キャッシュフロー計算書における営業活動によるキャッシュフロー及び投資活動によるキャッシュフローの合計額。

(注²) 有利子負債：短期借入金、長期借入金及び社債の合計額

感光材料・感材機器部門

当部門の売上高は 1,934 億円(前期比 1.2 % 減)となりました。

コンシューマーイメージングカンパニー カラーフィルムや印画紙を取り扱う コンシューマーイメージングカンパニーでは、世界最高レベルの実効感度と長期保存性能を実現したカラー フィルム「コニカカラーニューセンチュリア 800 ズームスーパー」をはじめ、 さまざまなシーンに威力を発揮する リバーサルフィルムの新シリーズ 「コニカクローム SINB(シンビ)」等 の新製品を発売し、ラインアップをさらに充実させました。

フィルムのビジネスでは、国内ではレンズ付フィルムも含め価格の下落が続き大変厳しい環境が続いておりますが、海外市場では成長性が高く、且つ当社のシェアの高いアジアを中

心に拡販に努めました。

一方で、インターネットの普及、通信インフラの向上や、デジタルカメラの著しい伸びにより、欧米を中心にオンラインフォトサービスへの期待が高まり始めました。北米では、複数の大手ネットサービスプロバイダーと提携し、フォトネットプリントティングビジネスの開始に向けて準備を始めました。国内では、全国ネットで展開しているミニラボ店「コニカフォトエクスプレス店」、「コニカデジタルフォトエクスプレス店」を中心に、店頭でのデジタルサービスをはじめとするお客様の多様なニーズにお応えできる体制を整えました。

メディカル＆グラフィックカンパニー メディカルイメージング製品では、需要の大幅な伸びが期待できず、厳しい環境でありましたが、病院内のネットワーク化・デジタル化に対応し、しかも画質が良いと評判の「コニカレーザーイメージヤ DRYPRO Model 722 」(高精細デジタル画像出力機) 「コニカダイレクトデジタイザ Regius Model 150 (カセットタイプの高精細デジタル画像撮影装置) の販売が好調でし

た。機器の販売増にともない、ドライフィルムも大幅に出荷を伸ばし、フィルム全体の販売も好調でした。

グラフィックイメージング製品は、国内では景気低迷と異業種からの参入による競争激化が一層進み厳しい環境が続いており、減収となりました。

一方で海外は拡販により増収となりました。コスト競争力強化のために生産拠点の集中化に着手し、同時に当社が高い評価を得ているカラープルーフ(校正)市場へのさらなる展開により収益性の強化を図りました。

インクジェット事業グループ

中期経営計画の中でインクジェット事業をコニカの戦略事業の一つとして位置づけ、ネットワーク化時代の高画質の画像出力手段としてその技術を確立し、大型新規事業となるよう育成中であります。高速・高画質のヘッドとインク、及び高精度塗布技術を軸としたメディアの三位一体の開発を推進しております。すでに市場で好評を博しておりますインクジェット用高級光沢紙が大きく伸張し、さらにヘッドとインクのコンポーネント事業も順調に立ち上がりました。

営業の概況

EM(電子材料)& ID事業グループ

昨年3月神戸に新工場を竣工させ、成長の著しいIT関連商品として液晶偏光板用TAC(トリアセチルセルロース)フィルム事業に本格的に参入しました。

新工場は順調に稼働し、さらに生産能力の増強を図っており、市場の厳しい品質要求に十分応える生産技術を確立いたしました。当期の後半に、米国経済の減速の影響を受け液晶パネルの需要は一時的にその伸びが鈍化しましたが、当期の売上高は前年に比べ大幅に伸びております。

情報機器部門

当部門の売上高は897億円(前期比1.2%増)となりました。

オフィスドキュメントカンパニー

デジタル複写機(Sitiosシリーズ)の新製品として中速デジタル複合機「コニカSitios7025/7035」を相次ぎ発売し、フルラインアップ化が整いました。特に、「Sitios7035」は当社独自開発の重合トナー搭載により、世界最高レベルの画質を実現いたしました。

これら複合機は、ネットワークを通

じた強力な入出力機能を有し、文書管理ソフト等の多数のアプリケーションソフトとともに、ソリューション販売を促進いたしました。ネットワーク化時代におけるオフィスのさらなるソリューションビジネス展開のために、米国西海岸に引き続き、当期はドイツに欧州ソリューションセンターを設置し、ソフト開発と販売のサポートを強化しました。

昨年4月には、ミノルタ株式会社との業務提携を発表し、12月には同社との重合トナー生産の合弁事業、さらに部品の共同購入、製品の相互供給、開発提携等を開始しております。

カメラ・光学部門

当部門の売上高は620億円(前期比10.8%増)となり、前期に引き続き増加いたしました。

オプテクノロジーカンパニー

光ディスク用非球面プラスチックレンズは、当期の後半に米国のパソコンを中心とする先端事業分野における商品の在庫調整や景気の減速が影響し、一時的に伸びが鈍化しましたが、通期では前年に比べて売上高、数量とも

に2桁の伸びを見せました。またレーザープリンタの走査光学系レンズ等のオプティカルコンポーネント、並びにカメラのレンズユニットを中心とするオプティカルユニットは引き続き堅調に推移いたしました。さらに3.5型MOドライブにつきましては640MBのUSB対応機種を11月から出荷しております。

カメラ&デジタルフォト事業グループ
フィルムカメラ需要は国内と欧米を中心に大幅に減少し、当社においてもこの分野は数量、金額ともに減少いたしました。その中で、「コニカHEXAR RF」と「コニカRevio CL」は平成12年度グッドデザイン賞に選定されました。

デジタルカメラは、大幅に需要が伸びるなか、当社の製品の評価は高く、OEM供給で引き続き売上高を大幅に伸ばしております。また、コニカブランドのデジタルカメラ「コニカe-miniシリーズ」を発売しました。

設備投資の状況

当期の設備投資の総額は154億円であります。主なものは、東京事業場(八王子)の光ディスク用非球面プラスチックレンズ生産設備の増設、神戸事

業場の液晶偏光板用TACフィルム新工場の増設、甲府事業場の医療用フィルム工場の建設工事等であります。

資金調達の状況

フリー・キャッシュフロー創出による有利子負債の削減を推進しており、創出したフリー・キャッシュフローの範囲内で、設備投資等を実施し、新たな資金調達は行いませんでした。

会社が対処すべき課題

今後の見通しとしては、国内のデフレ経済が続き、世界の景気の急速な減速等大変厳しい状況にあります。またデジタル技術の急進、IT革命等によって業種を越えたグローバルでの競争が激化し、当社を取り巻く環境は急速に変化するものと予測しております。

このような困難な環境に対応するために「SANプラン2004」で策定した次の全社方針を着実に実行し、計画の達成を目指します。

- 1) アナログからデジタル・ネットワークへの事業転換を強力に推進するとともに「選択と集中／社内外提携」も積極的に取り組んでいく。
- 2) 全社リソースの再配分と重点投資を資金とともに人材についても強力に実行する。
- 3) 社内カンパニー制の実効を上げ、さらなるグループの競争力強化のために、平成15年4月の分社化・持株会社化に向けて体制整備を進める。
- 4) 顧客満足向上の視点に立った「品質向上」を、開発、生産、販売、一体で推進する。
- 5) 地球環境への取り組みを「環境会計」の実践を通して徹底する。

なお、環境問題への取り組みにつきましては、当社の事業にとって、地球環境との調和、共存は重要であるとの考え方から地球環境保全を最も重要な経営理念の一つとして活動を継続してきました。地球温暖化防止対策の推進と循環型社会への対応を、経済性を満たす施策により進めてあります。特に今年度は、環境リスクマネジメントの推進という観点より環境予算を設定し、併せて環境情報の開示を積極的に進めます。

グループ全体でこれらの施策を実行し、国内外にコニカの存在感を示し、感動を創造する企業を引き続き目指してまいります。



貸借対照表

(平成13年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	195,060	流動負債	126,867
現金及び預金	21,224	支払手形	13,476
受取手形	15,656	買掛金	47,248
売掛金	87,309	短期借入金	13,390
有価証券	1,081	長期借入金(一年以内返済)	3,520
自己株式	1	社債(一年以内償還)	15,000
製品・商品	22,409	未払金	7,700
原材料	9,865	未払費用	21,690
仕掛品	14,408	未払法人税等	78
貯蔵品	4,050	前受金	354
前払費用	2,361	製品保証等引当金	1,361
繰延税金資産	5,735	事業再編・整理損失引当金	988
未収入金	9,818	その他の流動負債	2,057
その他の流動資産	1,671		
貸倒引当金	534		
固定資産	200,061	固定負債	71,324
有形固定資産	77,343	社債	45,000
建物	25,136	長期借入金	4,652
構築物	2,111	長期預り保証金	227
機械及び装置	28,551	退職給付引当金	21,444
車両運搬具	114		
工具器具備品	3,469	負債の部合計	198,192
土地	10,535		
建設仮勘定	7,425	資本の部	
無形固定資産	2,767	資本金	37,519
ソフトウェア	2,547	法定準備金	86,919
その他の無形固定資産	219	資本準備金	79,342
投資等	119,950	利益準備金	7,576
投資有価証券	16,272	剰余金	71,468
子会社株式	88,016	任意積立金	66,074
子会社出資金	5,359	特別償却準備金	182
長期貸付金	3,217	圧縮記帳積立金	2,027
長期前払費用	1,220	別途積立金	63,864
繰延税金資産	5,414	当期末処分利益	5,394
その他の投資	6,061	(うち当期利益)	(3,653)
貸倒引当金	5,613	評価差額金	1,022
		その他有価証券評価差額金	1,022
資産の部合計	395,122	資本の部合計	196,930
		負債・資本の部合計	395,122

損益計算書

(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

(単位:百万円)	
摘要	金額
経常損益の部	
営業損益の部	
営業収益	
売上高	345,284
営業費用	
売上原価	221,637
販売費及び一般管理費	105,830
営業利益	17,817
営業外損益の部	
営業外収益	
受取利息及び配当金	9,764
雑収入	2,718
営業外費用	
支払利息	7,046
雑支出	10,406
支 払 利 息	2,157
雑 支 出	8,248
経常利益	17,175
特別損益の部	
特別利益	
退職給付信託設定益	18,541
固定資産売却益	8,873
子会社株式売却益	8,517
特別損失	
退職給付会計基準変更時差異	1,150
子会社株式評価損	30,413
投資有価証券評価損	20,451
固定資産売却及び廃棄損	4,768
子会社整理損	2,358
税引前当期利益	1,574
税引前当期利益	1,259
税引前当期利益	5,303
法人税、住民税及び事業税	23
法人税等調整額	1,626
当期利益	3,653
前期繰越利益	3,708
中間配当額	1,788
利益準備金積立額	178
当期末処分利益	5,394

利益処分

(単位:円)

摘要	金額
当期未処分利益	5,394,227,507
特別償却準備金取崩額	36,475,407
圧縮記帳積立金取崩額	220,184,656
別途積立金取崩額	3,900,000,000
計	9,550,887,570
これを次の通り処分いたします。	
利益準備金	183,330,000
株主配当金	1,788,263,875
(1株につき5円)	
役員賞与金	45,000,000
(監査役分3,200,000円を含む)	
任意積立金	3,970,807,176
特別償却準備金	50,355,334
圧縮記帳積立金	3,920,451,842
次期繰越し利益	3,563,486,519

(注)平成12年12月10日に、1,788,258,215円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

連結貸借対照表

(単位:億円、未満切捨)

勘定科目	当期	前期	増減	増減率(%)
現金及び預金	554	536	18	3.5
受取手形及び売掛金	1,403	1,384	18	1.3
棚卸資産	1,022	1,042	19	1.9
その他の	198	395	197	50.0
流动資産計	3,178	3,358	180	5.4
有形固定資産	1,418	1,411	7	0.5
投資その他の	584	640	56	8.8
固定資産計	2,002	2,051	48	2.4
為替換算調整		86	86	
資産合計	5,181	5,497	315	5.7
有利子負債	1,819	2,123	304	14.3
支払手形及び買掛金	795	870	74	8.6
その他の	957	874	83	9.5
負債合計	3,572	3,868	296	7.7
少数株主持分	6	0	6	
資本合計	1,602	1,627	25	1.6
負債・少数株主持分及び資本合計	5,181	5,497	315	5.7
株主資本比率	30.9%	29.6%	1.3	
1株当たりの当期純利益	18円06銭	21円33銭	3円27銭	

連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円、未満切捨)

	当期	前期
I 営業活動によるキャッシュフロー	509	612
II 投資活動によるキャッシュフロー	81	112
I + II フリー・キャッシュフロー	428	500
III 財務活動によるキャッシュフロー	426	340
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	9	10
V 現金及び現金同等物の増加額	11	149
VI 現金及び現金同等物の期首残高	550	400
VII 新規連結による現金及び現金同等物の増加額	4	
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	565	550

連結損益計算書

(単位:億円、未満切捨)

	当期	前期	増減	増減率(%)
売上高	5,437	5,609	171	3.1
感光材料関連事業	3,068	3,219	150	4.7
情報機器関連事業	2,393	2,411	17	0.7
消去又は全社	25	22	3	
売上原価	3,191	3,237	45	1.4
売上総利益 (率)	2,245 41.3%	2,371 42.3%	126 1.0	5.3
販売費及び一般管理費	1,940	2,040	100	4.9
営業利益 (率)	305 5.6%	331 5.9%	25 0.3	7.8
感光材料関連事業	190	181	8	4.8
情報機器関連事業	201	247	46	18.6
消去又は全社	86	98	11	
営業外損益	103	146	42	
経常利益 (率)	201 3.7%	184 3.3%	16 0.4	9.1
特別損益	91	32	58	
税金等調整前当期純利益	110	152	41	27.3
法人税等	45	75	29	39.3
当期純利益 (率)	64 1.2%	76 1.4%	11 0.2	15.3

所在地別セグメント情報

(単位:億円、未満切捨)

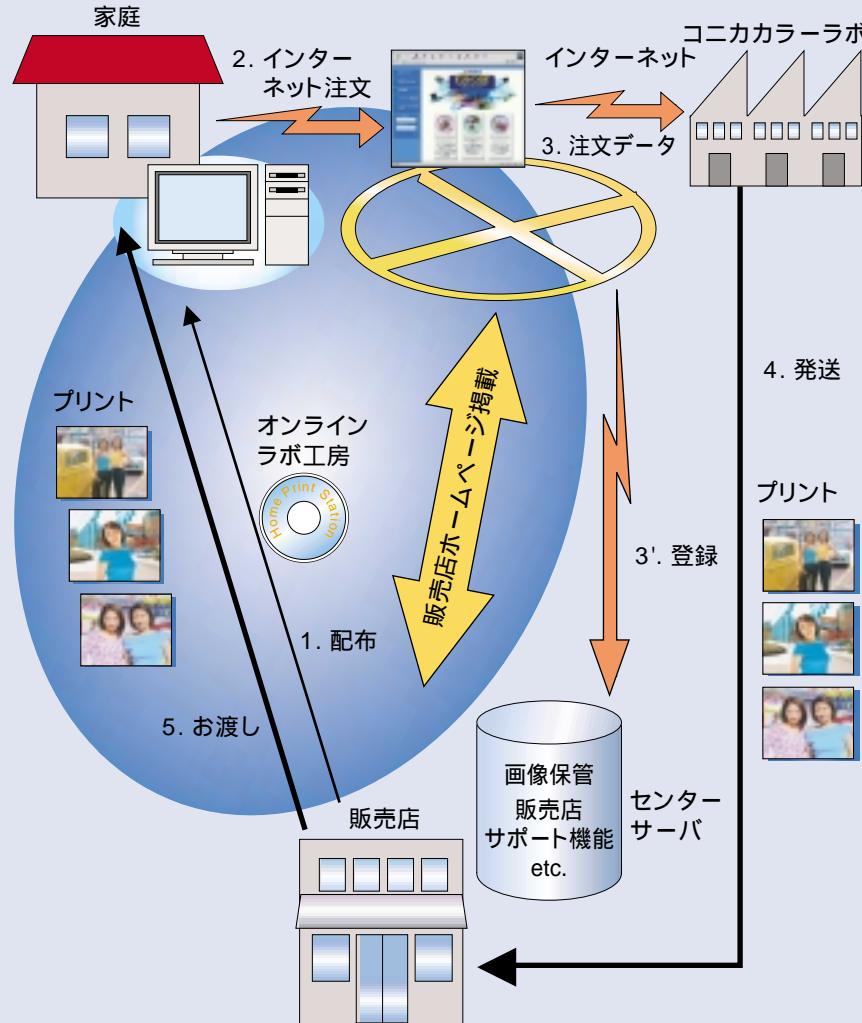
	売上高			営業利益		
	当期	前期	増減	当期	前期	増減
国内	4,369	4,389	19	362	336	25
北米	1,277	1,365	88	21	50	28
欧州	671	789	117	8	6	15
アジア	463	337	125	7	8	0
消去又は全社	1,345	1,272	72	77	71	6
合計	5,437	5,609	171	305	331	25

海外売上高

(単位:億円、未満切捨)

	当期	前期	増減
北米	1,400	1,393	6
欧州	729	856	127
アジア	811	790	21
合計	2,942	3,040	98
海外売上高の割合	54.1%	54.2%	0.1

Konica Topics



近年、インターネットとデジタルカメラの普及により、パーソナルシーンでもデジタルイメージングのアウトプットやコミュニケーションのニーズが急速に高まっており、より手軽で実用的なソリューションが求められています。

『コニカ オンラインラボ』は、ネットプリントサービス、デジタル画像のWeb保管サービス、Web上のコミュニティサービスを中心としたパーソナルユース用のデジタルイメージングネットワークサービスです。今回スタートするサービスは、デジタルイメージングの今後の普及・発展にも対応できるベーシックサービスとして、コニカが提案するWebソリューションです。

3大サービスは以下のとおりです。

「デジタル百年プリントサービス」

会員登録されたお客様が、『コニカ オンラインラボ』サイトで自宅から画像をアップロードしプリント注文ができるサービスです。画像加工・プリント



デジタルレイメーディングのWebソリューション 『コニカ オンラインラボ』サービスを開始

パソコンソフト「コニカ オンラインラボ工房」¹⁾を使えば、デジタルカメラで撮影した画像のプリントやポストカードのような加工プリントを、誰にでも簡単な操作で注文することができます。

ご注文のプリントの受け取り場所は『コニカ オンラインラボ』Webページにリストアップされた加盟店の中からお選びいただくことができ、ご自宅に直送することも可能です²⁾。

「オンラインアルバムサービス」
会員登録されたお客様が自宅のパソコンから、1年間 50MBまで無料でコニカのサーバーに画像保存ができるサービスです³⁾。

アルバム保存された画像は、お客様が独自に設定する「パーソナルフォルダ」にアルバム感覚で整理でき、遠く離れた家族や友だちともインター

ネット上で共有して楽しむことができます。シェアされた画像はインターネット上からデジタル百年プリントサービスのプリント注文も可能です。

「オンラインパーク」⁴⁾

会員だけでなく非会員の方にもデジタル画像の楽しさの領域を広げる、『コニカ オンラインラボ』のコミュニティ&アミューズメント Web サイトです。例えば、「似顔絵サービス」は、会員がアップロードした顔写真を似顔絵にデフォルメして Eメールで添付返信する ASP サービスです。『コニカ オンラインラボ』開設当初は無料でお楽しみいただくことができます。

また、コニカのホームページにもリンクされており、「楽しい写真教室デジタルカメラ編」もご覧いただけます。デジタルカメラの使い方がわかり易く解説されており、デジタルイメージングについての理解が深められます。

「コニカ オンラインラボ工房」

『コニカ オンラインラボ』サービスをご家庭で気軽にお楽しみいただくために作成した画像加工・プリント注文のためのパソコンソフトのことで、写真店の店頭を中心に CD-ROM などで配布されます。お客様が自宅のパソコンにインストールするだけで、煩雑なインターネット接続設定を一切行わずに画像加工やネットプリント注文、Web 上に画像の保管を行うことができます。

また、お客様が「コニカ オンラインラボ工房」を立ち上げるたびに自動的に『コニカ オンラインラボ』のセンターサーバーにアクセスされバージョンアップされる自動ダウンロード機能により、つねに更新された最新の情報・サービスを受けることができます。

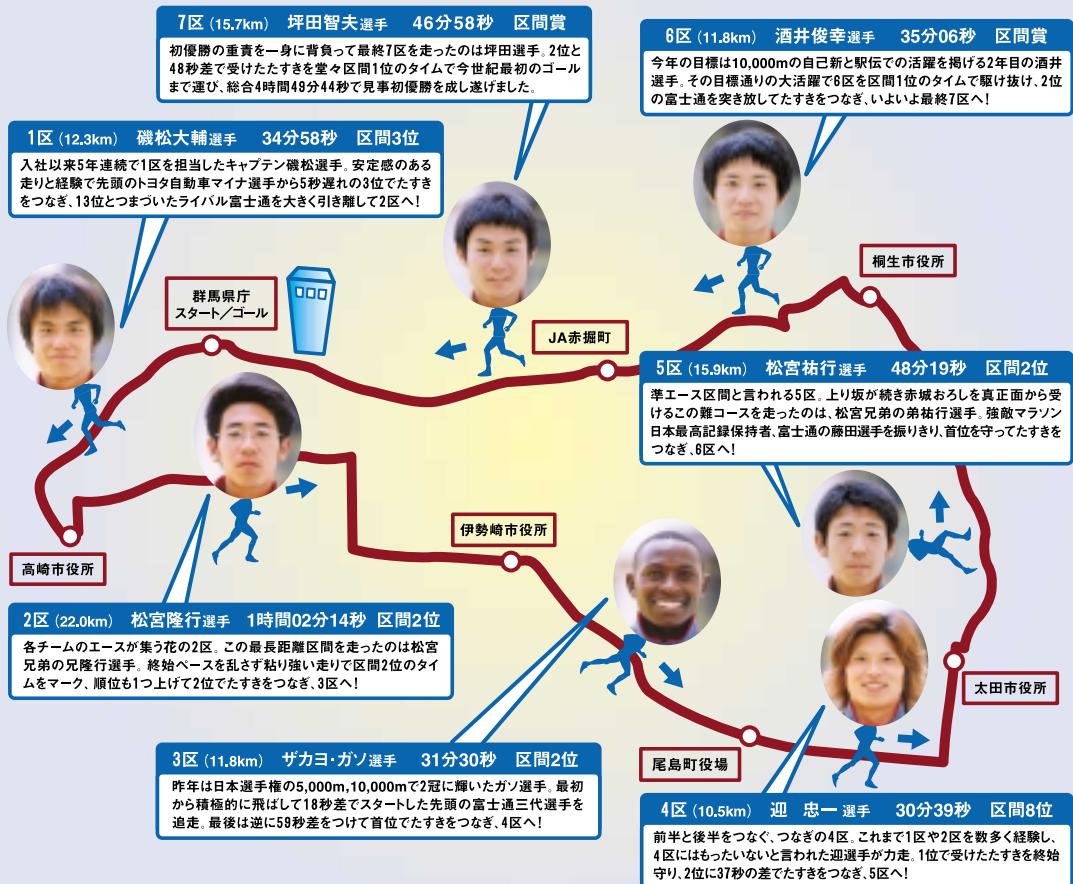
¹⁾「コニカ オンラインラボ工房」は Windows 用のアプリケーションソフトです。

²⁾直送は別途料金がかかります。

³⁾ 50MB 以上、1 年間以上の画像保存を希望されるお客様には有料サービスも提供いたします。

⁴⁾ 「オンラインパーク」は上記コンテンツからスタートし、徐々に充実させていく予定です。

ニューイヤー駅伝 第45回全日本実業団対抗駅伝競走大会(7区間 100km)



酒井監督コメント



多くの皆様からのご声援、ご支援に感謝申し上げます。まことにありがとうございました。今大会前から、当社陸上競技部への下馬評は高く、プレッシャーが全くなかった訳ではありません。私からは5位以内の入賞を目指してきましたが、選手は優勝の2文字にこだわり続けてきました。また、ワニライナ選手のシドニーオリンピック男子マラソン銀メダル、ガソ選手の日本選手権ダブルタイトル等、両外国人選手の活躍も選手たちに良い励みになったようです。今後はこの成績に慢心せず、“世界に通用するランナー”を選手との共通の目標にして頑張ってまいります。さらなるご支援、よろしくお願いいたします。

ニューイヤー駅伝第45回 全日本実業団対抗駅伝競走大会 で初優勝

コニカ陸上競技部(監督酒井勝充)は、2001年元旦に行われた「ニューイヤー駅伝第45回全日本実業団対抗駅伝競走大会」(主催:日本実業団陸上競技連合)で初優勝を飾りました。

新世纪の幕開けとともにさわやかに群馬上州路を駆け抜けた「コニカの駅伝チーム」の快走は、全国規模でテレビ等で映し出され、正月のお茶の間

に感動を呼び起しました。当日は、上州名物空っ風をはるかにしのぐ、嵐に近い寒風が吹き荒れる中でのレースでしたが、各選手は、むしろそれを“追い風”ととらえ“チャンスを呼び込む嵐”として歓迎しているかのような勢いでした。

昨年11月12日に行われた本大会の予選とも言える「東日本実業団対抗駅伝競走大会」で初優勝を遂げて以来、「元旦は、コニカの優勝の可能性大」との下馬評がうなぎのぼりで、監督

や選手には、言葉には表せないプレッシャーもかかっていました。

監督の酒井は、「あくまで5位以内を目標」と宣言する一方、選手からは「絶対、優勝を狙う」とやや監督と選手との間に心理面に隔たりがあったようです。しかし、監督は、12月29日、前橋市の宿舎に到着以降はこれまでとは一転し、「私は、もっと上位を狙う」と強い意思を表明。大会直前には、監督をはじめ、コーチ、各選手は、「優勝」の二文字だけを視野に大目標に向かっていました。後日監督は、「早い時期から選手に過度のプレッシャーはかけられない」との考えから控えめな発言を繰り返したのだと、本心を語っていました。

本大会には、これまで26回の出場を果たしていますが、過去の実績では、44回大会(2000年元旦)の4位が最高成績であり、今回の優勝は、1970年のコニカ陸上競技部創部以来、最高の快挙となりました。



株式の状況

会社が発行する株式の総数	800,000,000株
発行済株式の総数	357,655,368株
株主数(平成13年3月31日現在)	28,936名
(大株主(平成13年3月31日現在))	

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	20,458	5.7
株式会社東京三菱銀行	17,657	4.9
株式会社三和銀行	17,657	4.9
朝日生命保険相互会社	16,574	4.6
東洋信託銀行株式会社	14,570	4.1
野村信託銀行株式会社	14,504	4.1
三菱信託銀行株式会社	11,938	3.3
日本生命保険相互会社	11,340	3.2
中央三井信託銀行株式会社	8,516	2.4
安田火災海上保険株式会社	7,930	2.2

注: 上記の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)20,458千株、東洋信託銀行(株)17,657千株、野村信託銀行(株)14,497千株、三菱信託銀行(株)14,141千株、中央三井信託銀行(株)8,279千株であります。

役員

代表取締役会長	植松富司
代表取締役社長	岩居文雄
常務取締役	小宮衛
常務取締役	小板橋洸夫
常務取締役	鈴木繁
取締役相談役	米山高範
取締役	新谷恭將
取締役	神戸勝
常任監査役	久保田英夫
監査役	松本政之
監査役	若原泰之
監査役	加藤一祐
執行役員(常務取締役兼務)	鈴木繁
執行役員	小嶋忠
執行役員	森藤幸男
執行役員	伊藤國雄
執行役員	津野田靖光
執行役員	坂口洋文
執行役員	岩野駿平
執行役員	山口尚
執行役員	岩間秀彬
執行役員	河浦照男
執行役員	齋藤知久
理事	芳西哲
理事	井沢清
理事	中村知明
理事	風間源一郎
理事	桙澤翼

会社概況・株主メモ

創業 1873年(明治6年)
資本金 37,519百万円(平成13年3月31日現在)
従業員数 4,182人(平成13年3月31日現在)

本社 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2
関西支社 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-5-5
札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北三条西1-1-1
東北支店 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-12-55
名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-1
中国支店 〒730-0037 広島市中区中町8-6
四国支店 〒760-0025 高松市古新町2-3
九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-4-4
事業場 東京(日野・八王子) 小田原、神戸、甲府

決算期 每年3月31日
公告掲載新聞 日本経済新聞
名義書換代理人 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-3
東洋信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
東洋信託銀行株式会社証券代行部
TEL(03)5683-5111
同取次所 東洋信託銀行株式会社全国各支店
野村證券株式会社全国本支店

ご優待のご案内

当社では、平成10年12月より国内における1,000株以上の個人株主の皆様に、下記のご優待を実施しております。

1. 当社製カレンダーの贈呈

当社の中間決算期(毎年9月30日)時点の国内における1,000株以上の個人株主の皆様が対象となります。

2. 「コニカフォトクラブ」への割引入会

写真をご趣味とされておられるお客様を対象にしたクラブです。株主様は、入会金、年会費が割引となります。詳しくは、コニカプラザ「コニカフォトクラブ」係(TEL:03-3225-5001)にお問い合わせ下さい。

あなたの作品が見慣れた写真だねと言われたら、それはどうやら誉め言葉ではないようです。今までと違う写真を撮るにはちょっと努力が必要です。物の見方や使用する機材など他人とは違った選択が求められます。固定概念に捕らわれず自由な発想で作品作りにトライしてみましょう。



1. 魚眼レンズで花の接写

このレンズ特有の描写力をを利用して主要被写体を強調してみました。

花の接写はマクロレンズという発想を変えてみました。

2. 華やかな物の裏側は

孔雀の雄の求愛行動の後ろ姿です。この写真のようにできるだけ多くの角度から物を見ることが違いを出すポイントになります。



3. 組み合わせの妙

キリンとダチョウのツーショットです。主人公と何を組み合わせるかで写真の雰囲気が変わります。花の色と背景の色との組み合わせも同様です。